

DX を用いた教育の推進

高等教育院長
高石鉄雄

本学では 2016 年 4 月の教養教育センター設置とともに教養教育カリキュラムの大幅な見直しを行い、更に 2018 年 4 月には同センターを、全学教育改革を推進するための組織「高等教育院」として部局化し、第三期中期計画に従って教育に関わる諸課題の解決に取り組んできました。

第三期中期計画（～令和 6 年 3 月 31 日）

中期計画 1

「**学修成果の可視化**等により得られたデータをもとに、**三つのポリシーとカリキュラムの点検**を行い、各ポリシーとカリキュラムの更なる体系化を行う。また、**学生が学修成果を自己評価するための新たな仕組み**の導入を検討する。」

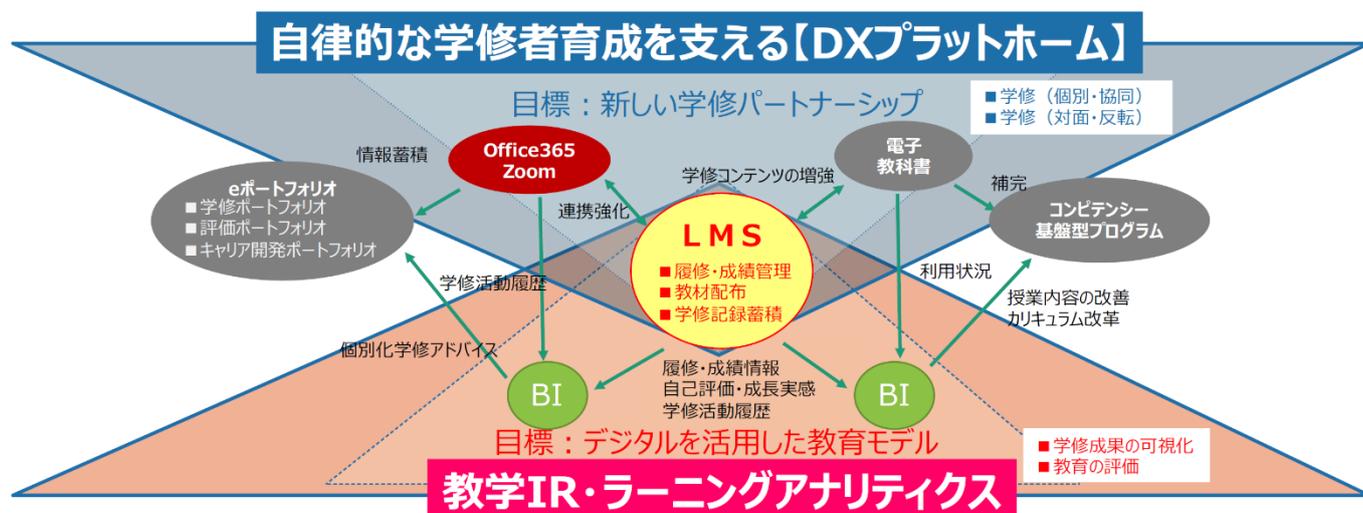
	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高等教育政策動向	「3ポリシーガイドライン」(平成28年3月)			「 教学マネジメント指針 」(令和2年1月)	「 デジタル活用教育高度化事業 」(令和3年1月)		
3ポリシー	各学部・研究科DP・CPの点検・改訂	改訂後のDP・CPを公表→DP・CPに基づく教育活動の実施			再点検	再検討	再改訂→
教育課程の体系化		カリキュラムマップ・ツリーの作成	カリキュラムマップ・ツリーの公表・点検・改正	教養課程を改正したカリキュラムマップ・ツリーの公表			学生が資質・能力を身に付ける観点からの最適化→
学修成果の可視化		可視化の方針検討	名古屋市立大学教学マネジメント基本方針の策定	学務情報システム(LMS)の改修	・DP目標別・成績シッターチャート ・ 自己評価・成長実感アンケート ・部局別・DP目標達成エビデンスの検討	・ eポートフォリオ (学修・評価・キャリア開発) ・部局別・DP目標達成エビデンスの特定・開発	AIによる学修診断

(注 令和4年度以降はNCU LX・DXに基づく見直し)

今後本学が進めるべきは、学生が学修成果を自己評価し自身の課題を自ら解決する能力を身につける、すなわち自律的学習者となる仕組みを整えること、さらには、学生一人一人がどのような目標に向かって何を学び、どのような方法で学習を進めているか、学習を進めるにあたって必要なもの、足りないもの、あるいは学びの妨げとなる課題などのデータを収集・分析し、学生をサポートする仕組みや体制を構築することです。

これら教育環境整備を可能とする補助金【[デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン](#)】の公募が令和2年度の文部科学省第3次補正予算においてなされ、本学が申請した「NCU LX・DX」（学生の学修意欲に寄り添う DATA driven LX システム構築計画：次ページ）が採択されました。

学生の学修意欲に寄り添うDATA driven LXシステム



この計画では、# 自律的な学修者の養成、# DX プラットホームの整備、# デジタルを活用した教育モデルの確立]を行います。

取組の概要ですが、コロナ禍の令和 2 年度および令和 3 年度前半は、ラーニングマネジメントシステム (LMS : 教養教育においては Live Campus) および主に Office365 と Zoom 等の協同学修ツールを活用した遠隔授業を実施してきました。今後は、ICT によって多様化した学びのスタイルを前提に、学生が「資質・能力」を身につけるといいう学修・教育目標を全学として明確化し、教育実践における的確性を確立する努力を継続することにより、そのシステムを支える条件整備とプロセス構築を推進する「学修の深化と条件・プロセスの形成」、学生と教員が具体的な問題と実践に関して他者から学び、他者と学びあう環境を培う「協同文化の醸成」の 2 点の課題に軸足を移す予定です。なお、今回の補助金では、「学修の深化と条件・プロセスの形成」という課題解決を目的として、データ連携基盤・統合データベース・ビジネスインテリジェンス (BI) ツールの導入までを予定しています。

本予算の申請にあたっては、「教育における DX 推進」を大学全体の取り組みとして進める必要から、既に各部署から「DX 推進委員」を選出いただきました。現在、同補助金 (約 9,400 万円) による機器・システム導入に関わる入札作業を進めているところですが、納入後は速やかに既存データを移設・集約し、その具体的な運用・利用方法について、同推進委員の方々と協議し、高等教育院主催による FD イベントあるいは各部署選出の同推進委員の方々を通じて各先生方にお届けする予定です。今後も、みな様方のご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今回の補助金獲得にあたっては、URA オフィス 服部教授、奥津講師、稲田学長特別補佐に多大なご協力をいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学の FD 活動や各部署における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。

ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。